

東北大学大学院経済学研究科  
地域イノベーション研究センター  
活動報告書  
(2013.4.1～2014.3.31)

2014年3月

東北大学大学院経済学研究科  
地域イノベーション研究センター

Regional Innovation Research Center  
Graduate School of Economics and Management  
Tohoku University



## 目 次

1. 地域イノベーション研究センターの概要	1
2. 地域の調査研究事業	3
2-1 地域産業復興調査研究プロジェクト	3
2-1-1 プロジェクト概要	3
2-1-2 シンポジウム	4
2-1-3 復興プロジェクト勉強会	7
2-1-4 共催事業	8
2-1-5 学会および論文等での発表	9
2-1-6 書籍出版	9
2-2 地域発イノベーション調査研究プロジェクト	9
2-2-1 プロジェクトの概要	9
2-2-2 新刊書籍で取り上げた 11 事例	10
2-2-3 地域発イノベーション・カフェ 「震災からの復興・東北の底力」	10
2-3 地域企業の景気の状態に関するアンケート調査	11
2-3-1 調査概要	11
2-3-2 調査結果	11
3. 地域の人材育成事業	13
3-1 地域イノベーションプロデューサー塾	13
3-2 みやぎ県民大学	20
3-3 関西起業塾	21
3-4 地域・学生交流プログラム（プロデューサー塾）	22
4. 広報活動	27
4-1 国内での活動	27
4-1-1 東北大学イノベーションフェア 2014	27
4-1-2 東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム	27
4-2 海外に向けた情報発信	27
4-2-1 国際交流基金ロンドン日本文化センター・セミナー	27
4-2-2 JILPT/ADAPT 共催国際セミナー	28
5. その他	28
5-1 センター関連新聞・雑誌掲載記事一覧	28
5-2 今年度の実施事業一覧	29
5-3 所在・連絡先	30



## 1. 地域イノベーション研究センターの概要

東北大学大学院経済学研究科は、東北地域における経済・社会問題に関する教育研究の中核的な機関であり、これまで蓄積してきた知的成果と教育研究能力を地域の課題解決と人材育成に活用していく使命を担っている。そこで2005年7月、東北地域のイノベーション能力の向上を通じて地域の産業振興と経済発展に貢献するために「地域イノベーション研究センター」(RIRC: Regional Innovation Research Center)が設立された。

2011年3月に発生した東日本大震災から3年が経過したが、2011年4月より復興調査研究プロジェクトを発足し、2012年度には正式に復興特別経費を財源とする「地域産業復興支援プロジェクト」(5カ年計画)がスタートし、本学の震災復興支援活動の中核的な役割を担っている。

RIRCの主な事業は、地域の調査研究と人材育成を二軸の活動領域として、多様な事業活動を実施している。また、年度ごとの事業計画や予算案および活動実績報告などの重要事項に関する意思決定は、RIRC運営委員会にて協議される。RIRC運営委員には、経済学研究科の教授会構成員が本研究科長より正式に任命される。

2013年度の主な予算は、地域産業復興支援プロジェクトが復興特別会計として9,120万円(5年間で総額4億6400万円)、公益財団法人東北活性化研究センターとの共同研究プロジェクト60万円、地域イノベーションプロデューサー塾の入塾料360万円などを合わせて約1億円の歳入となった。なお、地域産業復興支援プロジェクトについて、既に2013年度より3年間分を一括して受け取っているため、2015年度まで柔軟な予算計画が可能になっている。

2013年度の主な事業活動は以下の通りである。

### 【地域の調査研究事業】

- ① 地域産業復興調査研究プロジェクト
- ② 地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト  
(公益財団法人東北活性化研究センターとの共同研究プロジェクト)
- ③ 地域中小企業景況調査 (宮城県中小企業家同友会との共同調査)

### 【地域の人材育成事業】

- ① 地域イノベーションプロデューサー塾 (RIPS)
- ② みやぎ県民大学

2013年度の事業活動の主な成果とその発表は以下の通りである。

### 【シンポジウムでの調査研究成果の発表】

- ① 地域産業復興調査研究シンポジウム「震災復興政策の検証と新産業創出への提言ー広域的かつ多様な課題を見据えながら「新たな地域モデル」を目指すー」  
2013年11月2日(仙台)、2013年11月21日(東京)。
- ② 震災復興共同シンポジウム 神戸大学・東北大学 2013年11月23日(神戸)。
- ③ 地域発イノベーション・カフェ「震災からの復興・東北の底力」2014年2月28日。

#### 【調査研究プロジェクトの書籍発刊】

地域産業復興調査研究プロジェクトおよび共同研究プロジェクトの研究結果の公表の機会として、それぞれ、「東日本大震災復興研究Ⅲ 震災復興政策の検証と新産業創出への提言—広域のかつ多様な課題を見据えながら「新たな地域モデル」を目指す—」（河北新報出版センター、2014年3月）、「地域発イノベーションⅢ 震災からの復興・東北の底力」（河北新報出版センター、2014年2月）を書籍として刊行した。

#### 【地域イノベーションプロデューサー塾の開講と第1期生卒塾】

地域イノベーションプロデューサー塾（以下、RIPS）は、地域企業、特に中小企業の経営人材を対象に、革新的なイノベーションによる新事業の開発を促進し、地域における新たな雇用機会の創出と産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成する事業である。RIPSは前年度の試行を踏まえて、2013年8月末に36名の塾生を受け入れ、正式に開講された。2014年3月に成果発表会と卒塾式が行われ、35名が修了した。

#### 【海外向けの情報発信】

2013年度は2012年度に引き続き震災復興支援の取り組みを積極的に海外に発信するために、シンポジウムや講演会で地域イノベーション研究センターの教員が報告した。

- ① From Kobe to Tohoku The Role of Higher Education Institutions in the Process of Disaster Recovery (主催：国際交流基金ロンドン日本文化センター)、2013年11月13日（英国 ロンドン）。
- ② 労働政策研究・研修機構／ADAPT（イタリア・労働法・労使関係国際比較研究協会）共催国際セミナー「自然および環境災害の労働市場への影響」。2013年11月22日（仙台）。

#### 【その他、共催シンポジウムなど】

- ① 「東北復興セミナー」第1回 阪神大震災から学ぶ—神戸からのメッセージ（主催：三井住友銀行、河北新報社、RIRC）2013年11月6日。
- ② 「東北復興セミナー」第2回 街づくりイノベーション 新たな交流と情報発信による地域再生を考える（主催：三井住友銀行、河北新報社、RIRC）2014年3月1日。
- ③ 「東北大学イノベーションフェア2014 in 仙台」  
特別展示「地域産業復興支援プロジェクト」2014年1月28日。

## 2. 地域の調査研究事業

### 2-1 地域産業復興調査研究プロジェクト

#### 2-1-1 プロジェクト概要

2011年3月11日の東日本大震災の発生をうけて、2010年度末に研究科独自のプロジェクト研究経費を申請して、「東北地方太平洋沖地震の被害状況及び復興過程に関する総合調査」を課題とする緊急研究プロジェクトをまず立ち上げた。本プロジェクトはその後、東北大学総長裁量経費や経済学部同窓会である経和会等からの資金的援助等を得て、「地域産業復興調査研究プロジェクト」として活動を継続した。2011年4月には、研究科として新たな研究組織「震災復興研究センター」を設置し、上記プロジェクトの実施・運営体制を強化して、東北地域の諸大学、東北経済連合会、東北活性化研究センター、東北経済産業局、中小企業基盤整備機構、県・市町村（自治体）等との連携・協力のもと、震災からの地域復興に向けた調査・研究活動を行っている。

初年度の2011年度は、研究科教員の約1/3と東北各地域の経済経営系研究者がチームを組んで、産業、金融ビジネスインフラ、人材ビジネスインフラ、地域社会、マクロ経済把握の5分科会での調査研究を行い、東北地域の産業再生、経済復興のビジョン策定に取り組んだ。さらに、より長期間の復興支援を目指して、2012年度からは文部科学省の支援を得て、震災復興研究センターの専任教員と特別研究員を採用して研究体制を拡充するとともに、復興過程の実態把握を継続調査するために東北地域に本社を有する3万社を対象とする大規模企業調査（回収サンプル7000社のパネルサーベイ）を開始するなど調査研究活動を拡大した。なお本事業は、現在、全学の災害復興新生研究機構の8大プロジェクトの1つに位置づけられている。

2013年度は、調査テーマ毎に16のサブプロジェクトチーム（企業アンケート、地域金融、地域雇用、水産加工業、農業、流通業、観光業、製造業、土木建設業、NPO、先進農業と6次産業化・食品マーケティング、再生可能エネルギー産業、スマートシティ、環境未来都市構想（東松島市）、事業革新支援のあり方、復興支援（財政支出）の検証）を構成して調査研究を進めた。

その報告として、地域産業復興調査研究シンポジウム「震災復興政策の検証と新産業創出への提言－広域的かつ多様な課題を見据えながら「新たな地域モデル」を目指す－」を、2013年11月2日に仙台、11月21日には東京でそれぞれ開催した。また、今年度は阪神・淡路大震災を経験している神戸大学との連携を推進し、共同シンポジウム「震災からの経済復興」を11月23日に神戸で開催した。年度末の2014年3月にはこれらの成果を纏めて、『東日本大震災復興研究Ⅲ 震災復興政策の検証と新産業創出への提言－広域的かつ多様な課題を見据えながら「新たな地域モデル」を目指す－』を出版した。また、日本NPO学会・第5回震災特別フォーラム等の共催事業や調査研究に関する知見と情報の共有を図るための復興プロジェクト勉強会も実施してきた。

以下で、2013年度の個別活動実績について報告する。

## 2-1-2 シンポジウム

### (1) 地域産業復興調査研究シンポジウム in 仙台

「震災復興政策の検証と新産業創出への提言  
—広域的かつ多様な課題を見据えながら  
「新たな地域モデル」を目指す—

#### 【概要】

- ・日時：2013年11月2日（土） 10:00～17:00
- ・会場：東北大学片平キャンパスさくらホール
- ・主催：東北大学大学院経済学研究科  
地域イノベーション研究センター  
震災復興研究センター
- ・共催：公益財団法人経和会記念財団



#### 【趣旨】

2013年度調査研究の中間報告と位置づけ、前年度から継続する被災地企業に対する大規模アンケート調査および東北地域の主要産業などに関する調査プロジェクトの成果を発表し、被災3年目に入った各地での復興政策や取り組みのあり方を考え、将来の地域を構想するうえでの有意義な情報発信を行う。

#### 【プログラム】

\*開会挨拶 大滝精一 東北大学大学院経済学研究科長

\*調査プロジェクト報告

第一部：企業活動と経済・財政動向からみる復興

①「震災復興企業実態調査」から見えてくる被災地企業の復興状況

西山慎一 東北大学大学院経済学研究科准教授

②福島における避難者と雇用の現状

藤本雅彦 東北大学大学院経済学研究科教授

③地域金融機関行動の定量的変化と短期・長期の課題

相澤朋子 青山学院大学非常勤講師

④復興財政の検証—国・地方を通じた構造と実態の分析—

佐々木伯朗 東北大学大学院経済学研究科准教授

第二部：産業・社会活動にみる復興ステージの現状と課題

⑤東日本大震災後における南相馬市の地域商業

土屋 純 宮城学院女子大学学芸学部教授

⑥地元紙記事データベースをもとにしたNPO動向調査ほか

高浦康有 東北大学大学院経済学研究科准教授

⑦被災後の東北観光の変化と福島県の観光復興について

宮原育子 宮城大学事業構想学部教授

⑧東北地方における自動車部品調達現地化の動向

川端 望 東北大学大学院経済学研究科教授

⑨震災復興にみる地域産業としての建設業

桑山 渉 東北大学大学院経済学研究科特任教授

第三部：新産業創出への試み

⑩欧州調査報告～被災地に向けた農産物流通ビジネスの新たな視点～

三輪宏子 株式会社FMS総合研究所代表取締役

⑪再生可能エネルギーの普及を地域活性化につなげるための道筋と課題

柴田友厚 東北大学大学院経済学研究科教授

⑫New Orleans 調査報告

ニューオーリンズはいかにカリナから立ち直り、起業家の街へと変貌したか

福嶋 路 東北大学大学院経済学研究科教授

⑬スマートシティとバイオマス

古谷 豊 東北大学大学院経済学研究科准教授

\* 閉会挨拶 増田 聡 東北大学大学院経済学研究科教授・震災復興研究センター長  
・ 総合司会 桑山 渉 東北大学大学院経済学研究科特任教授

【実施結果】

\* 参加者数

受付参加者：93名

関係者およびスタッフ：20名

\* 実施内容に対する評価・感想など

当日会場で実施したアンケートによれば、シンポジウムに対する満足度と評価は総じて高く、各報告が興味を喚起する内容であったようである。また、調査研究がどのように復興に貢献できるのか、より具体的な提言を期待する意見などが寄せられている。



仙台会場 参加者との質疑応答

(2) 地域産業復興調査研究シンポジウム in 東京

「震災復興政策の検証と新産業創出への提言  
— 広域的かつ多様な課題を見据えながら  
「新たな地域モデル」を目指す —

【概要】

- ・ 日時：2013年11月21日（木） 14:00～17:30
- ・ 会場：大手町フィナンシャルシティサウスタワー  
3階カンファレンスセンター
- ・ 主催：東北大学大学院経済学研究科  
地域イノベーション研究センター  
震災復興研究センター
- ・ 共催：公益財団法人経和会記念財団



## 【趣旨】

仙台開催と同趣旨のもと、被災地の総合大学が中心となって取り組む調査研究プロジェクトの成果を被災地外(首都圏)においても発表し、被災地の現状と併せて広く認知してもらおう。

## 【プログラム】

\*開会挨拶 藤本雅彦 東北大学大学院経済学研究科教授  
地域イノベーション研究センター長

\*調査プロジェクト報告

①「震災復興企業実態調査」から見えてくる被災地企業の復興状況

西山慎一 東北大学大学院経済学研究科准教授

②福島における避難者と雇用の現状

藤本雅彦 東北大学大学院経済学研究科教授

③東日本大震災後における南相馬市の地域商業

土屋 純 宮城学院女子大学学芸学部教授

④震災復興にみる地域産業としての建設業

桑山 渉 東北大学大学院経済学研究科特任教授

⑤再生可能エネルギーの普及を地域活性化につなげるための道筋と課題

—風力発電産業を事例として—

柴田友厚 東北大学大学院経済学研究科教授

⑥スマートシティとバイオマス

古谷 豊 東北大学大学院経済学研究科准教授

\*閉会挨拶 増田 聡 東北大学大学院経済学研究科教授・震災復興研究センター長  
・総合司会 桑山 渉 東北大学大学院経済学研究科特任教授

## 【実施結果】

\*参加者数

受付参加者：63名

関係者およびスタッフ：12名

\*実施内容に対する評価、感想など

当日会場で実施したアンケートによれば、仙台開催と同様、満足したとの感想が多数を占めた。また、政府や自治体などとの連携、新産業創出および新しい地域モデルについての継続的な提言を望む意見も寄せられている。



増田聡 震災復興研究センター長

### (3)神戸大学社会科学系教育研究府・東北大学震災共同シンポジウム

「震災からの経済復興」

#### 【概要】

- ・日時：2013年11月23日 13:00～16:30
- ・会場：神戸大学統合研究拠点コンベンションホール

#### 【プログラム】

##### ①震災復興企業実態調査報告

－福島県の復興状況を中心に－

西山慎一 東北大学大学院経済学研究科准教授

##### ②福島における雇用の現状一定性的な解釈からの

櫻木晃裕 宮城大学事業構想学部教授

##### ③震災時の企業の意思決定

三矢 裕 神戸大学大学院経営学研究科教授

##### ④震災復興：阪神・淡路と東北

地主敏樹 神戸大学大学院経済学研究科教授



宮城大 櫻木教授による発表

### 2-1-3 復興プロジェクト勉強会

本調査研究プロジェクトを実施するうえで必要な専門的知見や情報の共有を図るため関連分野の大学、企業、官庁、研究機関等から講師を招き計12回実施した。

#### 第1回 産総研の震災研究の紹介

(桑原保人 産業技術総合研究所 活断層地震研究センター副センター長  
2013年4月9日)

#### 第2回 復興の現状と課題

(中石齊孝 復興庁参事官 2013年5月9日)

#### 第3回 地域建設業の現状と今後の展望

(井出多加子 成蹊大学経済学部教授  
2013年5月23日)

#### 第4回 バンダ・アチェにおける復興の過程

(バンダ・アチェ市職員ハフリザ氏、  
ユリ・マルトゥニス氏・2013年6月27日)

#### 第5回 震災復興に向けた福島県経済の現状と課題

(和田賢一 とうほう総合研究所研究員  
2013年7月4日)

#### 第6回 東日本大震災における災害支援NPO事例調査報告

(陳玉蒼 台湾実践大学 高雄キャンパス国際貿易学科助理教授  
2013年7月11日)

#### 第7回 相馬市の復興に向けた取り組み

(小山健一 国土交通省東北地方整備局道路部道路計画第一課長  
2013年7月18日)



バンダ・アチェ市の取組紹介

- 第 8 回 レジリエントな地域経済をつくるエコノミックガーデニング  
(山本尚史 拓殖大学政経学部教授 2013 年 8 月 6 日)
- 第 9 回 東北地域県間産業連関表による被災地域分析の可能性  
(野呂拓生 青森公立大学経営経済学部講師 2013 年 8 月 30 日)
- 第 10 回 震災からの復旧・復興と公民関係  
(善教将大 東北大学国際高等研究教育機構助教 2013 年 10 月 9 日)
- 第 11 回 災害時の事業継続計画 (BCP) の必要性と復興での意義  
(丸谷浩明 東北大学災害科学国際研究所教授 2013 年 11 月 7 日)
- 第 12 回 土木業者の編成原理と震災後の動きに関する予察的分析  
(梶田 真 東京大学大学院総合文化研究科准教授 2013 年 12 月 13 日)

#### 2-1-4 共催事業

震災復興に向けた研究活動等を行っている他機関と下記の共催事業を開催した。

##### (1) 東北復興セミナー

東日本大震災からの復興を多角的に考える連続シンポジウムとして、三井住友銀行、河北新報社、地域イノベーション研究センターの 3 者の共催で開催した。

第 1 回 阪神大震災から学ぶー神戸からのメッセージ

○日時：2013 年 11 月 6 日 (水) 14:00～16:00

○場所：東北大学百周年記念会館川内萩ホール

第 2 回 街づくりイノベーションー新たな交流と情報発信による地域再生を考える

○日時：2014 年 3 月 1 日 (水) 14:00～16:00

○場所：石巻河北ビル 1 階ホール

なお、第 3 回以降は 2014 年度に開催が予定されている。

##### (2) 慶應・国連 PRME プロジェクト 第 3 回復興構想インターゼミナール in 東北大

○日時：2013 年 9 月 8 日 13:00～18:30

○場所：東北大学片平キャンパスエクステンション教育研究棟

○内容：「企業の社会的責任 (CSR)」「企業と社会論」を研究する全国 7 大学のゼミが、復旧・復興に向けた社会的な課題の提起とその打開策についての調査・研究成果を発表。

○主催：東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター「地域産業復興調査研究プロジェクト」、慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所「慶應ー国連 PRME プロジェクト」

##### (3) 日本 NPO 学会 第 5 回震災特別フォーラム

○日時：2013 年 9 月 14～15 日

○場所：東北大学川内南キャンパス文化系総合研究棟

○内容：震災復興における民間支援の現状と課題についての講演、報告とパネル討論

○主催：日本 NPO 学会・震災特別プロジェクト

○共催：東北大学大学院経済学研究科、同地域産業復興調査研究プロジェクト

#### (4) ICTによる防災と震災復興シンポジウム

- 日時：2013年11月24日 10:00～17:00
- 場所：東北大学片平キャンパスエクステンション教育研究棟
- 内容：防災に役立つICTについての講演とパネル討論
- 主催：情報支援プロボノ・プラットフォーム
- 共催：東北大学大学院経済学研究科震災復興研究センター

#### 2-1-5 学会および論文等での発表（本調査研究のシンポジウムは除く）

本調査研究の成果を活かした発表実績としては、学会等での発表が10回、論文発表が11本である（2014年2月28日現在確認分）。

#### 2-1-6 書籍出版



2013年度の調査研究活動の成果を書籍（東日本大震災復興研究Ⅲ）に纏めて3月上旬に出版した。書籍は、4部構成となっており、序論（はじめに・産業再生と地域経済復興に関わる幾つかの論点）に続いて、第1部（震災復興企業実態調査）では被災地の企業を対象にしたアンケート調査の分析、第2部（企業活動と経済・財政動向からみる復興）では雇用、金融、財政の各分野、第3部（産業・社会活動にみる復興ステージの現状と課題）では商業、NPO活動、観光業、製造業、建設業の動向、第4部（新産業創出への試み）では農業、再生可能エネルギー、起業家支援、木質バイオマス事業の地域適用について、各サブプロジェクトチームが分担して執筆した。

## 2-2 地域発イノベーション調査研究プロジェクト

### 2-2-1 プロジェクトの概要

東日本大震災からもうすぐ3年がたとうとしている。1000年に一度といわれる天災によって多数の企業が甚大な被害を受けた。しかし瓦礫の中から経営者たちは立ち上がり、自社の再建・復興のために、そして地域社会のために、新たな道を模索しながら前に向かって歩み始めている。まさに今、東北企業はその底力を試されている。一方、震災を機に起業家たちが東北に集まり始め、被災地に新たなビジネスや雇用を生み出そうとしている。これらの動きは一つの大きなうねりを生み出しつつある。

当センターでは、2011年度より（公財）東北活性化研究センターと共同で「地域発イノベーション調査研究プロジェクト」を開始し、東北地域のイノベーターたちへのインタビューを行い、その軌跡と成功のポイントを調査してきた。2013年度は、東日本大震災後に復興・成長を果たしたりイノベーションを起こしたりした11組織を取り上げた。そして、一昨年、昨年に続き新たな11事例を書籍（新刊「地域発イノベ

ーションⅢ」)として出版した。また、この書籍の出版記念としてシンポジウム、「地域発イノベーション・カフェ」を開催した。本シンポジウムでは、新刊書籍の紹介を行うと共に、ワークショップでは事例を通して「復活する力」「逆境をプラスに変える思考」などについて学ぶとともに、参加者と東北の底力とは何かを議論し、交流を深めた。以下、新刊書籍の章立てと、シンポジウムの開催内容を紹介する。



## 2-2-2 新刊書籍で取り上げた 11 事例

- 第 1 章 障がい者の戦略的雇用から始まる地域復興  
「株式会社アップルファーム (六丁目農園)」
- 第 2 章 水産業復興特区の活用によるかき養殖の復興  
「桃浦かき生産者合同会社および株式会社仙台水産」
- 第 3 章 逆境としなやかな事業転換  
「小野食品株式会社」
- 第 4 章 新たな醤油製造販売ビジネスモデルへの挑戦による復興  
「ヤマニ醤油株式会社」
- 第 5 章 地域の地域による地域のための「東松島方式震災がれき処理」  
「株式会社 橋本道路」
- 第 6 章 震災を機に、地域資源を活用した地域発展の牽引者へ  
「有限会社オйкаワデニム」
- 第 7 章 造船業から建築業へ、海から陸へのエヴォリューション  
「株式会社 高橋工業」
- 第 8 章 世界の窓にクールコーティング革命を  
「株式会社フミン」
- 第 9 章 風評被害を乗り越えた老舗旅館の静かなイノベーション  
「会津東山温泉向瀧」
- 第 10 章 企業イノベーションからソーシャルイノベーションへ  
「株式会社高田自動車学校」
- 第 11 章 専門家集団が牽引する地域デザイン・イノベーション  
「一般社団法人 ISHINOMAKI2.0」

## 2-2-3 地域発イノベーション・カフェ 「震災からの復興・東北の底力」

### 【概要】

- 日時：2014年2月28日(金)  
18:00~20:00(懇親会 20:00~21:00)
- 会場：東北大学片平キャンパス  
エクステンション教育研究棟 6階 講義室 A
- 主催：地域イノベーション研究センター  
公益財団法人東北活性化研究センター

### 【プログラム】

- 開催挨拶 東北大学大学院経済学研究科長 大滝 精一
- 基調講演「東日本大震災からの復興(事業転換への挑戦)」  
小野食品株式会社 代表取締役 小野 昭男氏



#### ○ワークショップ

テーマ：「東北の企業の復活を支えたものは何か」、  
「逆境をいかにチャンスに変えるか」、  
「東北の底力とは何か」など

コーディネータ：「地域発イノベーションⅢ」執筆者

○閉会挨拶 地域イノベーション研究センター長

藤本 雅彦



ワークショップの様子

## 2-3 地域企業の景気の状態に関するアンケート調査

### 2-3-1 調査概要

本調査は、宮城県中小企業家同友会と東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センターが共同で、自主的な独自調査として実施するものである。この調査は、同友会会員企業の景気の実態を明らかにすることによって個々の会員企業の経営戦略に活用してもらうこと、また日本政府において閣議決定された「中小企業憲章」制定にともなう、地方行政における条例制定のための学習運動の展開に必須となる、地域経済の現状と特徴をデータでつかむことを目的としている。

#### (1) 調査実施期間

2013年8月7日～2013年8月23日

#### (2) 調査対象企業および調査対象

宮城県内全域の中小企業家同友会会員

#### (3) 調査事項

調査では、現在の経営状況に関する事項を15項目、業種別の経営状況に関する事項を8項目、3ヵ月後の経営状況の予測に関する事項を2項目、および特別テーマとして過去3ヶ年の正社員の職場定着の状況に関する事項を9項目調査した。

#### (4) 調査方法

質問紙郵送調査法

#### (5) 集計結果の公表と報告書

集計および報告書の作成は、東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センターが行った。その結果は宮城県中小企業家同友会を通し公表される。

#### (6) 回答企業数

調査票を配布した224社中94社から回答を得た（回答率42.0%）。なお全体の会員企業数は1,033社（2013年8月1日現在）である。

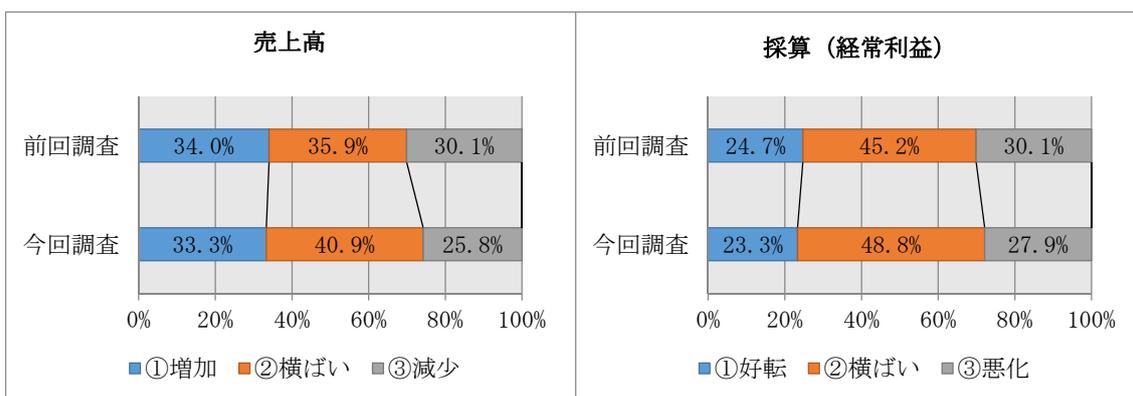
### 2-3-2 調査結果

#### (1) 景況感

会員企業の今回調査（2013年1～7月）と前回調査（2012年7～12月）の「売上高」と「採算」が前年同期と比較してどのように変動したのかを調査した。まず、「売上高」について、今回調査は2012年1～6月期と比較して「増加」と答えた企業は33.3%、「減少」と答えた企業は25.8%となった。前回調査は2011年7～12

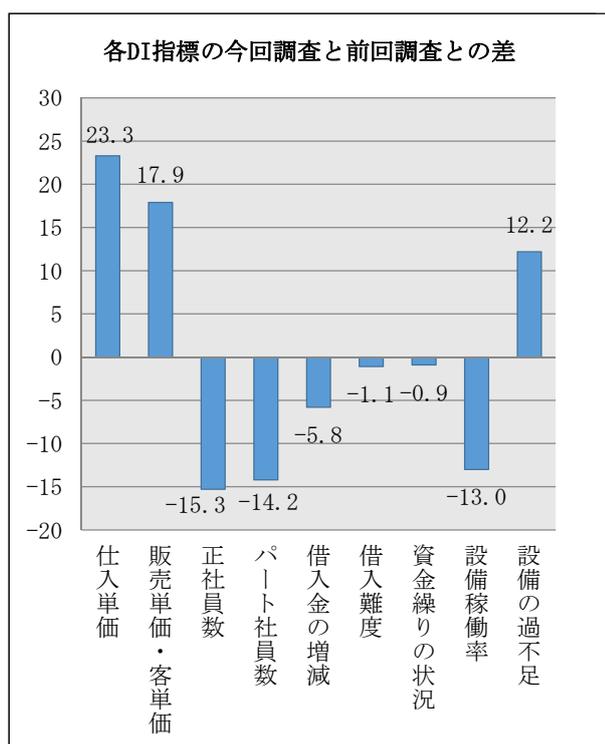
月期と比較して「増加」と答えた企業は 34.0%、「減少」と答えた企業は 30.1%となった。

次に「採算」について、今回調査は 2012 年 1～6 月期と比較して「好転」と答えた企業は 23.3%、「悪化」と答えた企業は 27.9%となった。前回調査は 2011 年 7～12 月期と比較して「好転」と答えた企業は 24.7%、「悪化」と答えた企業は 30.1%となった。



## (2) 個別の経営指標（DI 指標）

会員企業の今回調査（2013 年 1～6 月）と前回調査（2012 年 7～12 月）の経営状況が前年同期と比較してどのように変動したのかに関する調査結果をもとに両者の差を算出した。経営状況の各項目の DI 指標を見ていくと、まず、「仕入単価（原材料・商品等）」の DI 指標は、前回調査の 27.2 を 23.3 ポイント上回る 50.5 となっている。次に、「販売（加工・工事）単価・客単価」の DI 指標は、前回調査の -8.0 を 17.9 ポイント上回る 9.9 となっている。社員状況では、「正社員数」の DI 指標は、前回調査の 27.0 を 15.3 ポイント下回る 11.7 となっており、「パート社員数」の DI 指標は、前回調査の 25.9 を 14.2 ポイント下回る 11.7 となっている。金融状況では、「借入金の増減」、「借入難度」、「資金繰りの状況」のすべての項目の DI 指標で前回調査を下回っている。特に、「借入金の増減」では、前回調査の 5.8 を 5.8 ポイント下回る 0.0 となっており、他二つの項目よりも減少が大きいことがわかる。最後に、設備状況では、「設備稼働率」DI 指標が前回調査の 11.9 を 13.0 ポイント下回る -1.1、「設備の過不足」が前回調査の -15.9 を 12.2 ポイント上回る -3.7 となっている。



### 3. 地域の人材育成事業

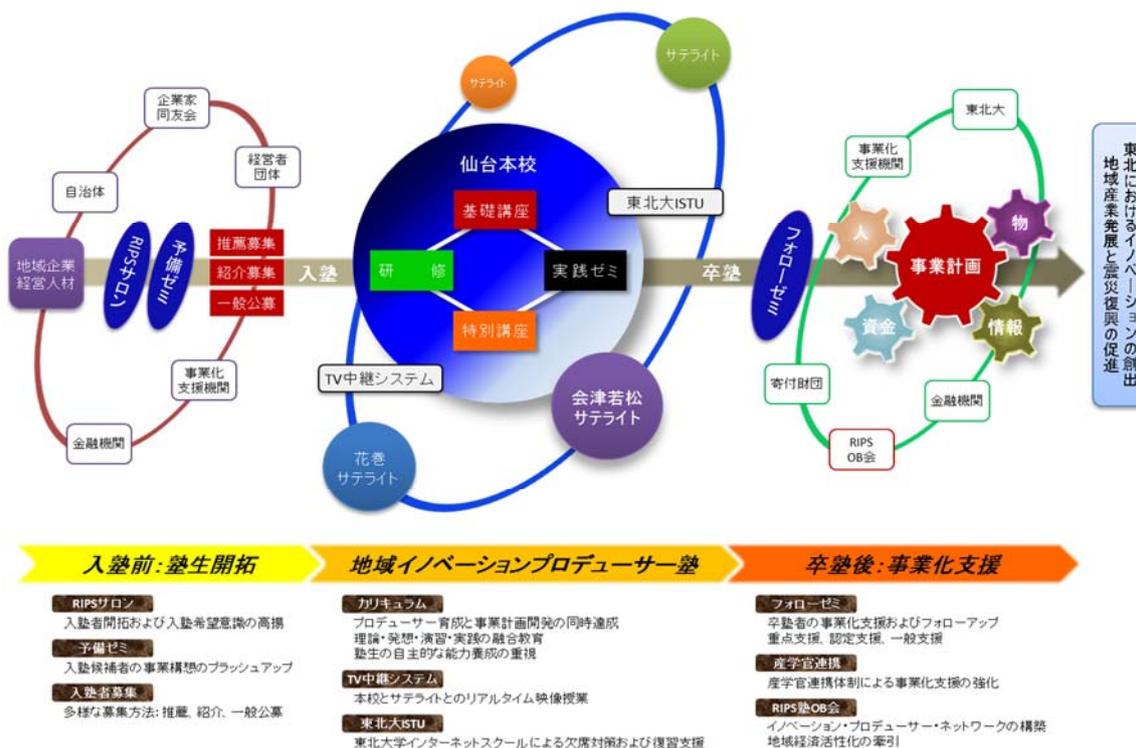
#### 3-1 地域イノベーションプロデューサー塾

##### (1) 概要

地域イノベーションプロデューサー塾（以下、RIPS）は、地域企業、特に中小企業の経営人材を対象に、革新的なイノベーションによる新事業の開発を促進し、地域における新たな雇用機会の創出と産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成する事業である。RIPSは、地域の経営人材が未来を創るイノベーションに挑戦し、魅力的な事業プランを開発し、構想力と実行力を支える知力・スキル・マインドを学習するための場を提供するとともに、卒業後の事業プランの実現化を支援していく。



地域イノベーションプロデューサー塾の概要



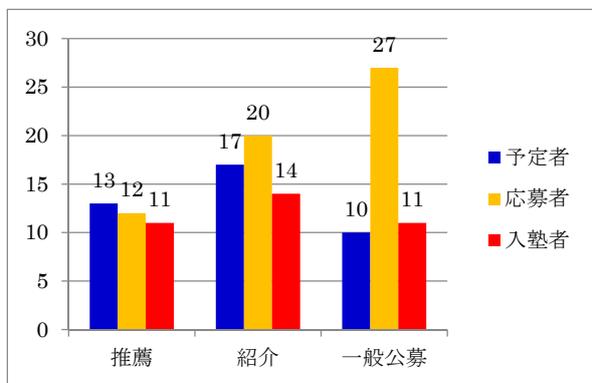
RIPSは前年度の試行を踏まえて、今年度に正式開講した。5月から入塾者募集を行い、第1期生となる36名の入塾者を受け入れ、8月31日に入塾式が行われた。仙台本校のほかに岩手県花巻市と福島県会津若松市の2カ所にサテライトを開設し、平日夜間の授業はテレビ中継システムによるリアルタイム映像授業が行われた。2014年2月末までの半年間、カリキュラムに基づいた授業が行われ、3月中には成果発表会、視察研修を行い、3月15日には卒業式が行われ、35名が卒業した。

## (2) 塾生募集結果

塾生募集は「推薦募集」、「紹介募集」および「一般公募」の3方式で行われた。4月中旬までに推薦機関と紹介機関を個別訪問して説明会を行うとともに、センターHPに募集要項を掲載し、新聞広告とDM発送を行った。

推薦募集と紹介募集については、5月末までに推薦機関と紹介機関による募集が行われ、6月末には両方式による入塾者が決定した。今年度の推薦募集においては、仙台商工会議所青年部および宮城県中小企業家同友会から推薦された12名のうち、個人事情により辞退した1名を除いた11名が入塾した。紹介募集は、サテライト紹介機関および地域金融機関から紹介された計20名のうち、第2次選考（面接）を通過した14名が入塾した。その後、一般公募による募集が行われ、7月末にはすべての塾生が決まった。

2013年度 入塾者募集の結果



募集予定人数：計 40 名

推薦 13 名、紹介 17 名、一般 10 名  
(仙台本校 30 名、サテライト 10 名)

応募人数：計 59 名

推薦 12 名、紹介 20 名、一般 27 名

入塾者：計 36 名

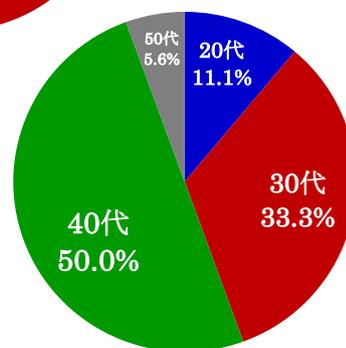
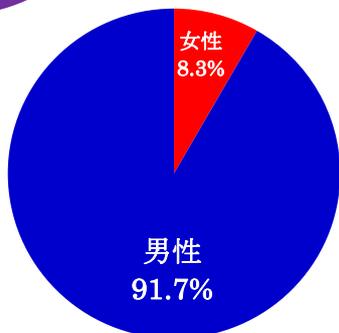
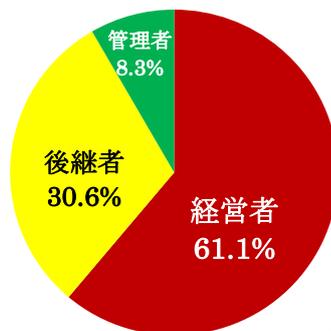
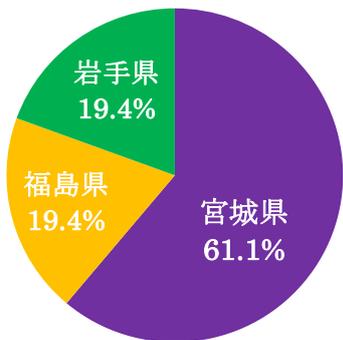
推薦 11 名、紹介 14 名、一般 11 名

－仙台本校 26 名

－花巻サテライト 6 名、

－会津若松サテライト 4 名

入塾者 36 名の地域別、役職別、年齢別および性別の分布は、以下のとおりである。



### (3)カリキュラムと年間日程

今年度のカリキュラムおよび主要な年間日程は、以下のとおりである。総授業時間数は、140 時間を超える。

#### 【カリキュラムの構成】

区 分	内 容	回 数
基礎講座	新事業のデザインに必要な基本的な知識として、ビジネスデザインの原理と方法、デザイン思考、マーケティング、資金計画、技術、知財と法務などについて学習し、またそれを組織として支えるために必要な人材・組織マネジメント、業務改善などについて、講義と議論を通じて学習する。	22 回
特別講座	毎回特定のテーマを設定し、基礎講座の内容とも連動させながら、東北地域の中小企業が新事業をデザインし成功させていくためにもつべき重要な知識や視点として、需要分析と集客のデザイン、ブランド戦略、中小企業の事業承継と海外進出などについて、成功事例を中心に学習する。	8 回
研 修	従来とは異なるイノベティブな取り組みを実現するためには、事業運営に必要な知識だけでなく、実際に組織や関係者に影響力を発揮するための事業家マインドや高度な対人関係スキル、複眼思考スキルなどが要求されます。研修では、演習などを通してこうしたマインドやスキルを習得する。	スキル研修 4 回 マインド研修 1 回
実践ゼミ	塾生自身の事業アイデアをベースに、「イノベーションを可能にするビジネス設計書の完成」を目指す。実業で活用されている事業設計工程に基づき、演習を中心としたスタイルで、毎回、ビジネス部品をひとつひとつ構築し、最終的に、卒業後に実行可能なレベルの事業プランを組み立てる。	12 回

#### 【主要な年間日程】

2013 年 8 月 31 日(土) ～9 月 1 日(日)	入塾式、入塾研修（成功事例研修、マインド研修）
2013 年 9 月 ～2014 年 2 月	カリキュラムに基づいた授業 （基礎講座、特別講座、研修、実践ゼミ）
2014 年 3 月 1 日(土) ～3 月 2 日(日)	事業プランの成果発表会
2014 年 3 月 7 日(金) ～3 月 8 日(土)	視察研修（大阪、神戸）
2014 年 3 月 15 日(土)	卒業式、卒業パーティ

#### 【入塾式と入塾研修】

8 月 31 日(土)にラフォーレ蔵王の会議室で入塾式が行われた。それに続いて、イノベーション成功事例研修が開催され、塾生が目指すべきイノベーションや事業開発の手本となる事例を学習することによって、RIPS での学習を方向づけた。

この研修では、優れたイノベーションにより



山形の一中小企業から世界的な繊維メーカーへと飛躍しつつある佐藤繊維(株)がどのようにイノベーションに挑戦し世界一流のアパレルメーカーを対象に事業を展開できるようになったかについて、イノベーターである佐藤正樹社長が自ら講演し、塾生とディスカッションを行った。この研修は、塾生たちに大変強い刺激となり、イノベーターになろうという意欲と覚悟を改める機会となった。



成功事例研修講師 佐藤正樹社長

### 【実践ゼミにおける事業プランの指導体制】

実践ゼミは、受講者自身の事業プランの作成を指導するための授業で、事業概要レポート、事業構想レポートおよび事業計画レポートの作成を段階的に行った。板垣良直特任教授の統括のもとで、7つのクラスを編成し、6人の講師(特任准教授(客員))がそれぞれのクラスを担当した。



第1課程：第1回～第5回

デザイン思考による演習・実習

第2課程：第6回～第8回

仮説と検証

第3課程：第9回～第12回

事業設計図とロードマップの完成、成果発表会の準備

### 【事業プラン成果発表会】

2014年3月1日(土)、2日(日)には、塾生たちが半年間の学習成果を発揮して作成した事業プランの成果発表会が開催され、35人の塾生が事業プランを発表した。RIPSの教員と実践ゼミ講師だけでなく、RIPS運営諮問会議、推薦機関、紹介機関、サテライトからも多くの関係者が参加した。

各塾生が7分間の発表をした後、担当の実践ゼミ講師が2分間のコメントを行った。チーム発表が2つ行われたが、そのうちの1つは在塾中に結成された連携チームである。最も感動的なシーンは、ミュージカル事業のイノベーションを目指した事業プランの発表を行った際に、それを実際にミュージカルにして発表したことであった。



### 【視察研修】

2014年3月7日（金）、8日（土）には、大阪と神戸を訪問して視察研修を行った。この研修は関西経済連合会のご協力を頂いて実現したもので、塾生、卒塾生、教員およびスタッフなど28名が参加した。主なプログラムは以下の通りで、いずれも予想を大きく超える刺激を受けることができた。

- がんこフードサービス株式会社 小嶋淳司会長の講話
- 株式会社スーパーホテル 山本梁介会長とのセミナー
- 株式会社神戸クルーザー・コンチェルト 南部真知子社長の講話
- 大阪企業家ミュージアム見学



### 【卒塾式】

2014年3月15日（土）に地域イノベーション研究センターで卒塾式が行われ、第1期生として35名に卒塾証書が授与された。そして、優秀な事業プランを作成した卒塾生4名に対する表彰が行われた。



第1期卒塾生とRIPS関係者

塾生一人一人は、余所では得られない貴重な経験をRIPSで得ることができ、今後イノベーション・プロデューサーとして事業プランの実現に向けて邁進していきたいと覚悟を述べた。



### 【優秀塾生表彰】

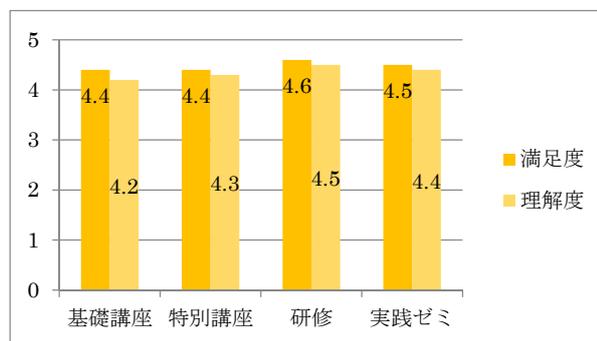
- ベストイノベーション賞：伊勢千佳子 氏  
（株式会社イトオン）
- 優秀賞：阿部章 氏 （有限会社パルコ）  
三輪寛 氏  
（株式会社ワイヤードビーンズ）  
高橋敏宏 氏 （株式会社アエラ住設）

#### (4) 結果

##### 【授業アンケートの結果】

すべての授業について授業アンケートを実施して塾生の満足度と理解度を確認することによって授業の内容と方法に対する塾生の反応を把握した。

講座ごとの満足度と理解度についての結果を総合すると、右図のとおりで、おおむね良好な結果となった。



##### 【出席状況】

講座ごとの出席状況は以下の表のとおりである。すべての講座において 92%を超える高い出席率となっており、これは塾生たちの高い熱意を現すものである。

RIPS の目的を達成するためには、塾生がすべての授業に出席するのが望ましく、その対策として欠席した授業についてはレポートを提出してもらった。基礎講座または特別講座を欠席した場合は、授業の映像を東北大学インターネットスクール(ISTU)に掲載しておき、欠席者がその映像を見て自宅で学習してから、レポートを提出してもらった。映像をとれなかった研修と実践ゼミを欠席した場合は、授業の教材などを活用して別途提示された課題についてレポートを提出してもらった。

出席状況

講座	開講した授業回数	平均出席回数	平均出席率
基礎講座	21 回	19.9 回	94.7%
特別講座	8 回	7.4 回	92.8%
研 修	5 回	4.7 回	93.4%
実践ゼミ	12 回	11.1 回	92.2%

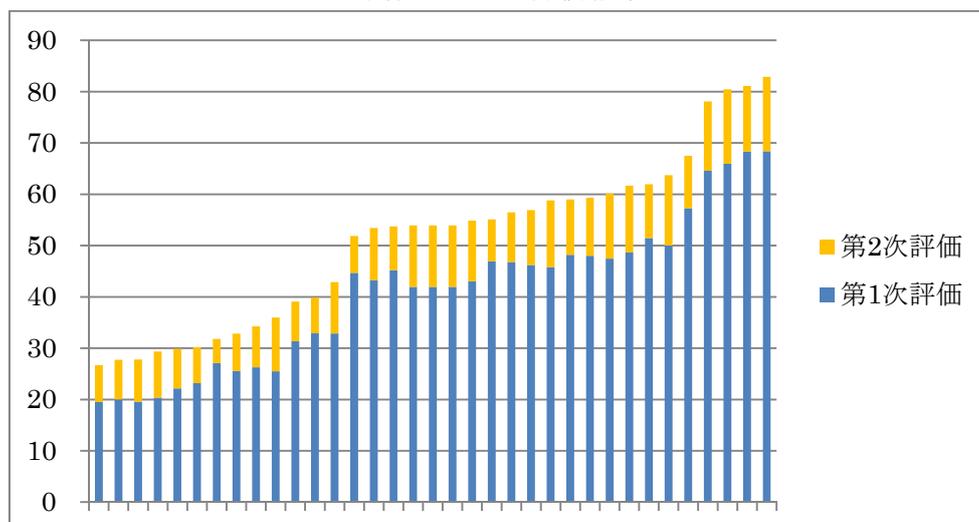
※基礎講座において、講師の特別事情により 1 回の授業が開催できず、計 21 回となった。

##### 【事業プランの評価結果】

塾生が開発した事業プランについては、2 段階の評価を行った。第 1 次評価は、それぞれの塾生が開発した事業プランについて、実践ゼミの講師陣が①経験デザインと価値創造、②事業モデル、③事業システム、④計画（ロードマップ）、⑤資金計画、⑥地域貢献という 6 つの項目を用いて厳しく評価し、85 点満点で採点した。第 2 次評価は、成果発表会での発表を聞いて RIPS 運営会議委員 6 名が総合評価を行って 15 点満点で採点した。第 1 次評価と第 2 次評価の点数を合計して、順位付けを行った。その結果は以下のとおりである。

全体的な順位付けの結果を見ると、上位に 4 プラン、中位に 18 プラン、下位に 13 プランに分けられる。中位以上 22 プランは、現実性のある事業プランとして実行可能なレベルのものである。しかし、下位の 13 プランは、事業の革新性または実行可能性において大きな問題点または不十分さを残しているものである。

事業プランの評価結果



最高点：82.90点      平均点：51.07

【RIPS サロンおよび予備ゼミの開催実績】

地域社会に対する RIPS の広報および今後の塾生開拓のために、今年度は以下のように RIPS サロンと予備ゼミを開催した。その他にも、2014 年 3 月に仙台商工会議所青年部と共催で RIPS を紹介するための交流会を開催した。

- 2013 年 9 月 14 日(日)    伊達市保原町    共催：福島県中小企業団体中央会
- 2013 年 9 月 20 日(金)    RIRC    共催：いわき産学官ネットワーク協会
- 2013 年 10 月 3 日(木)    会津若松市
- 2013 年 10 月 25 日(金)    伊達市保原町    共催：福島県中小企業団体中央会
- 2013 年 11 月 25 日(月)    伊達市保原町    共催：福島県中小企業団体中央会
- 2014 年 1 月 10 日(金)    伊達市保原町    共催：福島県中小企業団体中央会
- 2014 年 2 月 21 日(金)    花巻市    主催：花巻市農業青年クラブ連絡協議会

(5) 課題および来年度に向けて

【カリキュラム編成】

カリキュラムについては、全体的に良好なものであった。しかし、基礎講座と特別講座における一部の科目については、内容、講師または開講時期を変更するのが望ましいと考えられる。来年度には、日本の歴史上の起業家の行動を紹介する授業および新事業の立ち上げに欠かせない販路開拓の授業を強化することにした。

【実践ゼミの運営】

第 1 課程への時間配分が多くなり、その後の事業プランの作成が時間的に厳しかった。その理由は経験デザインの熟知を重視したことおよび塾生間の基礎能力のばらつきへの対応が必要だったことである。来年度は事業プラン作成のための十分な時間確保を考えて運営するための工夫が必要である。

その他にも、今年度の実施結果を踏まえてクラス編成の考え方と回数、講師と塾生の役割の明確化と周知徹底、講師間の指導方針と指導方法の違いへの対応、講師間の異なる専門能力のより有効な活用、および特別指導チームの活用などが課題として見

えてきた。また、事業プランの指導効果をもっと上げるためには講師陣が塾生の所属企業を訪問して実際の状況をもっと正確かつ幅広く把握することが必要であり、そのためには塾生の所属企業を訪問することが望ましいと意見も出された。

#### 【サテライトでの授業】

テレビ中継による映像授業においては、講義の臨場感を高め、議論などの際に疎外感を感じさせないことが重要であるが、今年度はその対応にすこし不十分さがあった。また技術的な問題のため授業途中映像が途切れる事態が数回発生した。この問題については、すでに原因を究明して解消した。来年度に向けて、臨場感と疎外感の問題を緩和するために、授業担当講師への案内をより徹底するなどの対策が必要である。

#### 【事業化支援】

今年度の卒塾生に対しては、重点支援、認定支援および一般支援といった事業化支援が行われる。特任教授の指揮のもとで年4回のフォローゼミを開催し、卒塾生の事業化を支援していく。

#### 【RIPS OB会】

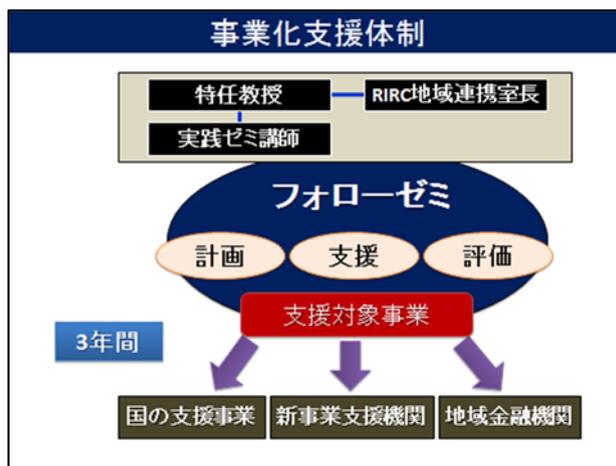
今後、本塾の卒塾生が東北地域の発展を牽引する役割を果たしていくためには、卒塾生たちをつなぐ基盤が必要である。RIPSはこうしたOB会の結成と活動を促すために、RIRCのHP上に卒塾生たちのデータベースを構築し、2014年4月から運営することにした。

#### 【履修証明プログラム】

RIPSは、2014年度から本学の「履修証明プログラム」の適用対象となり、本塾の修了者には関連規程に基づいて総長から履修証明書が授与されることになった。

#### 【来年度の入塾案内資料】

来年度の入塾者募集案内のためにRIPSパンフレットとDVDを新しく制作した。新しい案内資料においては、本塾のコンセプトをより鮮明に提示するとともに、サテライトの設置などの変更を反映した。



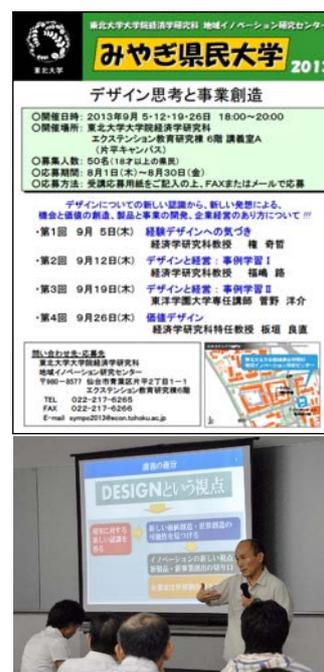
### 3-2 みやぎ県民大学

#### (1) 概要

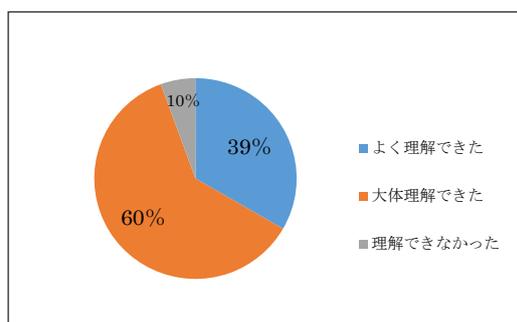
宮城県の委託事業「みやぎ県民大学学校等開放講座」を受け入れ、“デザイン思考と事業構想”と題し、新しい製品や事業の開発および企業経営の起爆剤としてデザインをとらえ、私たちの生活世界とデザインとの関係を新しく把握し、企業経営におけるデザインの位相を高めていく必要性について、4回の講座を実施した。

## (2) 講義内容

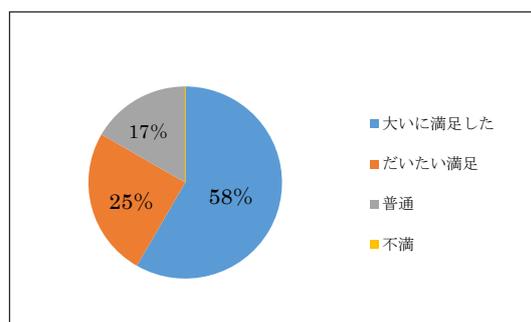
- 第1回 9月5日(木) 18:00~20:00  
「経験デザインへの気づき」  
権 奇哲 経済学研究科 教授
- 第2回 9月12日(木) 18:00~20:00  
「デザインと経営：事例学習Ⅰ」  
福嶋 路 経済学研究科 教授
- 第3回 9月19日(木) 18:00~20:00  
「デザインと経営：事例学習Ⅱ」  
菅野 洋介 東洋学園大学 専任講師
- 第4回 9月26日(木) 18:00~20:00  
「価値デザイン」  
板垣 良直 経済学研究科 特任教授



## (3) アンケート結果



理解度



満足度

平成26年度は「デザイン発想からのイノベーション」をテーマに4回の講義を実施する予定である。

### 3-3 関西起業塾

2013年7月から9月にかけて、「関西起業塾」と題して3回の公開講座を開催した。これは、東日本大震災からの復興を支援したいという関西経済連合会の提案を受けて共同企画したものである。

全国的にも有名な関西の企業経営者3人が東北地方の若手経営人材と学生たちにこれからの東北を担うための企業づくり・新事業づくりのヒントを熱く語った。東北地域の再生は、より多くの中小企業の事業イノベーションによる経済の活性化と雇用の創出が大きな鍵を握る。そのためには、次世代リーダーとなる人材が起業家精神をもって新たな事業にチャレンジすることが不可欠である。今回の関西起業塾はそれに向けての強い



意欲と豊かな智恵を得る機会となった。

- 第1回 7月27日(土)「海は元気の発信源～神戸の“運命の船”と共に16年～」  
南部真知子氏 株式会社神戸クルーザー・コンチェルト 代表取締役社長  
神戸商工会議所 議員
- 第2回 8月24日(土)「和をもって、うんと働き、運と働こう～家業から企業へ～」  
河内幸枝氏 マロニー株式会社 代表取締役社長  
関西経済連合会 グローバル人材育成・活用委員会副委員長
- 第3回 9月14日(土)「起業家マインドの育成～経営は変化創造業なり～」  
渡部隆夫氏 ワタベウェディング株式会社 相談役  
京都商工会議所 常議員

およそ150人の若手経営人材、学生、一般市民およびセンター関係者が参加した。参加者からは、関西の経営者との対話から、新しいことにチャレンジすること、社会に幸せを提供する企業経営、社員の創造的な工夫を活かすことなど、時代の状況に対応した経営者のリーダーシップなど、社会と地域に貢献する企業と経営者のあり方について多くのヒントを得ることができ、非常に刺激的だったという感想がたくさん寄せられた。

来年度は、RIPS 塾生たちにも参加してもらうために、開催時期を9月以降にし、内容についても、「伝統産業で世界へ」または「下請けから世界へ」をテーマにして開催することにした。



### 3-4 地域・学生交流プログラム（プロデューサー塾）

学生によって企画・主催される学生プロデューサー塾は今年度で32回目を迎えた。今年度は5つのゼミが主催をし、魅力的な講師を迎え意欲的な聴衆を集め、いずれの会も充実した内容と学びを得る有意義な時間とすることができた。各回の概要は下記のとおりである。

#### 第28回「メディアの在り方～心の底から声を放つ～」

講師：後藤 心平 氏

(一般社団法人メディア・コミュニケーション教育振興協会代表理事)

主催：経済学部ゼミナール協議会

日時：2013年4月28日(金) 15:00～18:00

場所：東北大学川内南キャンパス 経済学部第2講義室

28回目を迎えたプロデューサー塾は、一般社団法人メディア・コミュニケーション教育振興協会 代表理事である後藤心平さんをお呼びして、「メディアの在り方」をテーマに講演していただいた。

後藤さんは、長くテレビ局でキャスター・アナウンサーとして活動していたご自身の経験から、メディアの情報が私たちに与える影響の大きさ故に求められるメディアリテラシーの重要性をお話ししてくださいました。メディアリテラシー教育をメディア自身が率先して行うことで、人々のメディアリテラシーが高まり、そのことが情報の質の向上を促し、結果としてメディア自身の成長にもつながるといふ新しいメディアの在り方を語っていただいた。

講演会中は後藤さんから以前携わられていたラジオを聴かせていただいたり、映像を取り入れたりした講義に惹きつけられた。また、終始後藤さんは自身のお話に加え、学生からもメディアに対する意見を直接お求めになった。それに対して参加していただいたほとんどの学生や、ご講演にいらしていた社会人の方が、自分の意見を発信するという聴衆参加型の活発な講演となり、参加者一人一人がメディアの在り方について考える場となった。

そして後藤様は最後に、人々の心の声にしっかりと耳を傾け、そして自らは心の底から声を放つというコミュニケーションの大切さを熱く語ってくださった。



## 第29回 「ウォールストリートの経験とマネーボール」

講師：立花 陽三 氏

(株式会社楽天野球団 代表取締役社長)

主催：経済学部・高浦ゼミ

日時：2013年6月20日(木) 18:30～20:00

場所：片平さくらホール

仙台市に拠点を置く楽天野球団の立花陽三氏を講師にお招きし、数々の外資系証券会社に在籍していた頃の経験や、現社長として野球団経営や球団の現状についてご講演していただいた。

講演内容については、主に立花氏の経歴についてお話していただいた。慶應義塾大学在籍時にはラグビー部に所属し、厳しい環境の中で日々猛練習を重ねていた。大学卒業後はソロモンブラザーズ証券に入社し、後にゴールドマン・サックス証券へと移るも、他の社員からソロモンを見下すような発言をされ、大変に悔しい思いをし、更に上を目指す



きっかけになったという。

現在の野球団社長としては、海外選手との年俸の比較や、打率の変化など、球団の現状を主にお話いただいた。また、野球団は地域密着型の企業であるため、定期的に社員総出でスタジアム周辺の清掃活動を行っているそうである。

質疑応答では、楽天のファンであるという質問者も多く、「Kスタでは鳴り物を使用した応援が禁止されているが、これを許可することはできないか」という質問をした学生は、「地域に密着した企業として、近隣住民に迷惑がかかる可能性のあることを許可することは難しい」との回答を得ていた。

感想としては、外資系証券会社を渡り歩き、海外勤務も経験された立花社長のお話は大変興味深く、また、立花社長がお世話になったという楽天の三木谷社長を始めとする方々のエピソードを交えてお話いただき、人とのつながりを大事にされる社長のお人柄が垣間見え、非常に貴重な時間となった。

### 第30回 「大人の夢～なぜ彼は南極を目指したのか～」

講師：小森 智秀 氏

(第50次日本南極地域観測隊、現気象庁青森气象台)

主催：経済学部・福嶋ゼミ

日時：2013年7月3日(木) 15:00～17:00

場所：東北大学川内南キャンパス経済学部棟第三講義室

今回は大人になっても夢を追い続けることの大切さをテーマに、気象庁にお勤めされた後に南極地域観測隊の一員として南極に行くことを決めた小森智秀さんに講演会の講師を務めて頂いた。

講演会は従来の講師がスライドを用いてお話するといったスタイルとは一味ちがい、実際に小森さんが南極に観測に行った際に使った防寒服や観測用の気球、また小森さん自身が南極で撮ったオーロラなどの写真を講義室内に展示し、今回の目玉とも言える南極の氷とともに実際に目で見て触って体験できる聴講者参加型の講演会となった。

前半で南極についての知識などについてスライドを使ってご紹介いただき、そのあとに小森さんが南極で撮ったビデオ映像をみんなで見たあと、聴講者が先に述べた防寒服や気球、南極の氷を自由に触る時間をもうけた。講演会後半には小森さんのキャリアを紹介していただくという流れで講演会は進んだ。

前半の南極の説明では写真がたくさん貼られたスライドやビデオ映像を用いることで、わかりやすく南極という地域について知ることができ、また南極でそうめんをしたりタオルを凍らせたりしている映像など、聴講者が楽しく南極について知識を深めていけるような工夫が施されていた。

休憩中には実際に防寒服を着て写真を撮ることができたり、南極の氷が溶けていく際に発せられるプツプツという音を聞くことができたりと南極を身近に感じるこ



ができた。

後半のキャリアの説明では、出生から現在に至るまでの小森さんの人生を、順を追って説明して下さった。そして最後には「カードをいかに組み合わせるかが重要。大学生活の今はカードを集める時期」という言葉とともに私たち学生にエールを送って下さった。

### 第31回 「私達は何のために働くのか」

講師：出口治明氏

(ライフネット生命保険株式会社  
代表取締役会長兼 CEO)

主催：経済学部・木村ゼミ

日時：2013年10月22日 15:00～16:30

場所：東北大学川内南キャンパス 経済学部第三講義室

今回のプロデューサー塾では「私達は何のために働くのか」というテーマのもとに元日本生命保険で国際業務部長等を務めた後、還暦でベンチャー生命保険企業であるライフネット生命株式会社を立ち上げた出口治明氏を講師にお迎えした。また、出口氏は無類の読書好き、旅行好きで歴史にも深く通じており、過去には東京大学総長室のアドバイザーを務めたという経歴も持つ。

講演ではテーマの下、大きく分けて3つの事をお話いただいた。1つ目は何のために人は働くのか、ということについて。人は誰も周りに不満を持っていたり、すこしでもよくしたいと思っていたりする。それはつまり全ての人が世界経営計画の一端を担っており、そのために行動することが「働く」という事である、というお話をしていただいた。

2つ目はこれから働く上でどのような思考法をすべきか、と言う事について。前述したように働くということは「世界を自分なりに認識し、その一部を担う」ということだが、そのためには世界をしっかりと見る必要がある。そのための方法として「タテ・ヨコ思考」と「算数で考える」という2つの思考法について教わった。「タテ・ヨコ思考」とは世界についてタテ、つまり同じモノを異なる時間軸で比較する事と、ヨコ、つまり同じ時間軸で異なるモノを比較し考えるという方法である。次に「算数で考える」というのは世の中について考える際は定量的なファクトに基づいて論理的に考えるという事である。以上2つの思考法を用いることで世界をなるべく正しく認識することができるかと教わった。

3つ目は実際に働く上でどのように行動していくかについて。これから私達が働く際に競争力を上げるためには同じ作業を同じ方法で繰り返してはだめで、創意工夫して改善していくことが大切であるというお話をされた。そして、その創意



工夫とは自分の頭にあるアイデアを組み合わせ、組換えてアウトプットすることであり、そのためには自分の頭のなかに知識を蓄えていなければならないとおっしゃっていた。

どんな会社を選べばいいのか、といったような狭い視野ではなく、働くとはどういうことなのか、生きるとはどういう事なのかといったような様々な事をお話いただいたことによって、私自身も含め聴講していた学生は広い視野で今後を考えなおす良いきっかけになったと感じた。

## 第 32 回 「高野先生の世界一受けないキャリア講座

### ～トンペー生よ、未来を切り拓け。～

講師：高野秀敏氏（株式会社キープレイヤーズ代表取締役）

主催：経済学部・西出ゼミ

日時：2013年11月12日（火）15:00～16:30

場所：東北大学川内南キャンパス文学部第一講義室

今回のプロデューサー塾では、株式会社キープレイヤーズ代表取締役の高野秀敏氏をお招きし、自らのキャリアや就職活動についてご講演いただいた。

前半部は高野氏の歩んできたキャリアとともに、就職活動での考え方や現在の仕事についてのお話であった。就職活動での考え方に関して高野氏は、「みんなが右にむいたら左にむけ！みんなと同じ方向をむくのならば人より早く走れ！」「自己認識・自分のポジションについて考えることが必要だ」という。また、現在の仕事に関しては、「人材エージェンツとして、成長業界を中心に転職支援、スカウトおよびヘッドハンティングを行っている。今の仕事のルーツは祖父がやっていた保護司の仕事で、自分も仕事を頑張る人を応援したいと考えた。」とのことであった。

後半部では「スカウトされる人はどのような人か」というお題で参加者が4人ずつのグループに分かれて簡単なディスカッションを行った後、それに対する高野氏の考えを教えていただいた。グループワークでは、「イノベーターな人」「即戦力となる人」「会社に必要となる能力をもつ人」といった人がスカウトされるという意見が参加者から挙がった。高野氏もそれに同意された上で、「スカウトされる人は、結果が出ていて、評判が良く、一人二役、三役をこなすことができる人である。ゼネラリストよりスペシャリストが求められるので、不器用な人はなにかに特化したほうがよい。」との意見をおっしゃっていた。

今回のプロデューサー塾の参加者は約80人であった。就職活動を控えた3年生が最も多く、理系の学生、留学生および1年生も見られた。質疑応答では高野氏自身の強みに関する質問や転職に関する質問等がされ、参加者と高野氏の間で活発なやりとりが交わされた。

第32回 プロデューサー塾  
Mission: **トンペー生よ、未来を切り拓け。**  
11.12 (火) 15:00~16:30  
東北大学川内南キャンパス 文学部第一講義室  
Speaker **高野 秀敏 氏**  
株式会社キープレイヤーズ <人材紹介・人事・経営コンサルティング> 代表取締役  
東北大学経済学部経済学専攻、キャリアセンターアドバイザー  
大学人材紹介会社にて、法人企業の人材コンサルティング業務、転職支援を担当し、業績向上を促進。その後、キャリアアドバイザーとして活動。2009年に株式会社キープレイヤーズを設立。キャリアに関する執筆、講演多数。  
※当日でもご参加いただけます  
入場無料 事前申込不要  
TEL: 022-251-4200 FAX: 022-251-4206  
E-Mail: na@kenichika.jp  
Website: http://www.kenichika.jp/  
主催 東北大学経済学部経済学専攻 地域イノベーション研究センター  
共催 東北大学経済学部 産業戦略推進課 西出ゼミ



## 4. 広報活動

### 4-1 国内での活動

#### 4-1-1 東北大学イノベーションフェア 2014



2014年1月28日（火）に開催された「東北大学イノベーションフェア 2014」の特別展示『東北大学復興アクションー8つのプロジェクトー』にて、地域産業復興支援プロジェクト「震災復興に向けた東北地域産業の調査研究と革新的プロデューサーの育成」のブース出展を行った。当日は、地域内外の企業関係者、研究者等が多数訪れた。

#### 4-1-2 東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム



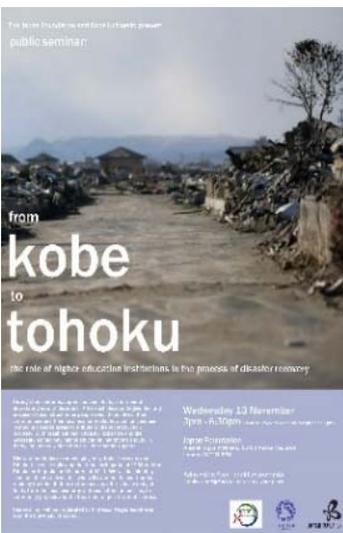
2014年3月9日（土）に開催された『東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム～「東北復興・日本新生の先導」を目指して～』において、東北大学全体として取り組んでいる8つの重点プロジェクトの1つである「地域産業復興支援プロジェクト」の活動内容を藤本センター長が紹介した。

### 4-2 海外に向けた情報発信

#### 4-2-1 国際交流基金ロンドン日本文化センター・セミナー

(イギリス・ロンドン)

*「from Kobe to Tohoku –the role of higher education institutions in the process of disaster recovery」*



- 日時：2013年11月13日 15:00～18:30
- 場所：国際交流基金ロンドン日本文化センター
- 主催：神戸大学、国際交流基金、東北大学

被災地の大学が復興において果たしてきた役割について神戸、東北の各大学から4名が報告を行った。神戸大学からは、震災後の経済復興の教訓および被災者の精神的ケアについて、東北大学からは、地域経済復興に向けた大学の役割および被災地の復興の現状について、それぞれ報告がなされた。平日の昼間にもかかわらず、熱心な研究者、地元の学生、留学生および一般市民が多数参加し、報告後は参加者の多岐にわたる関心から活発な質疑応答が交わされた。

#### 4-2-2 JILPT/ADAPT 共催国際セミナー



2013年11月22日（金）に東北大学において開催された（独）労働政策研究・研修機構（JILPT）とイタリア・労働法・労使関係国際比較研究協会（ADAPT）、東北大学共催による国際セミナー「自然および環境災害の労働市場への影響」において、藤本センター長が地域産業復興調査研究プロジェクトの地域雇用に関する調査結果を発表した。

本セミナーでは、経済学研究科の吉田教授も震災に関する個人アンケートの分析に基づく発表を行ったほか、イタリア、イギリス、ニュージーランドおよびJILPTの研究者による発表がなされた。

### 5. その他

#### 5-1 センター関連新聞・雑誌掲載記事一覧

- ・2013年4月12日（金） 岩手日報  
花巻にサテライト校 革新的な経営者育成 東北6県で増設へ
- ・2013年4月13日（土） 河北新報  
東北大、花巻にサテライト 市と覚書 会津若松市とは下旬に
- ・2013年4月13日（土） 岩手日日  
経営人材育成へ サテライト校設置 9月開講花巻市と覚書調印
- ・2013年4月13日（土） 読売新聞  
革新的ビジネス 東北大9月開塾 花巻などテレビ授業も
- ・2013年4月27日（土） 福島民友  
革新的事業の創出支援 若松に東北大サテライト
- ・2013年4月27日（土） 福島民報  
若松に「経営者塾」 9月開設、リーダーを育成
- ・2013年5月11日（土） 朝日新聞  
いでよ起業家 東北大、会津若松に「塾」 地域のリーダー
- ・2013年6月29日（土） 河北新報  
暮らし再建プロジェクト正式発表 被災3県で円卓会議
- ・2013年7月21日（日） 河北新報  
若手経営者を支援「関西起業塾」27日スタート 仙台で東北大院
- ・2013年7月29日（月） 河北新報  
地域発イノベーションⅡ 固有資源活用例を紹介
- ・2013年7月30日（火） 河北新報  
経営の心得 関西企業に学ぶ 仙台で起業塾開講
- ・2013年9月3日（火） 日本経済新聞（東北版）  
中小の新事業展開 指南 東北大が経営塾 産業復興を支援
- ・2013年9月11日（水） 岩手日日新聞  
地域導く経営人に 東北大・イノベーションプロデューサー塾  
花巻サテライト開講
- ・2013年9月17日（火） 福島民友  
地域の経営人育成 若松で基礎講座開講

- ・ 2013年9月19日(木) 日本経済新聞  
被災地で実学 東北の産業復興に大学の知
- ・ 2013年10月1日(火) 河北新報  
新産業住民参画が鍵 震災復興—『東北』はどこへ『向かう』のか
- ・ 2013年10月7日(月) 河北新報  
再生、阪神大震災から学ぶ 東北復興セミナー
- ・ 2013年11月2日(土) 日本経済新聞  
求ム正社員、復興加速へ 東北大調査、不足感強まる 福島、労働者の流出原因か
- ・ 2013年11月2日(土) 朝日新聞  
被災地本社企業 人手不足が深刻
- ・ 2013年11月12日(火) YAHOO! JAPAN ニュース  
「復興バブル」に陰り 地域間格差縮小も業況感低く 東北大企業実態調査
- ・ 2013年11月18日(月) 朝日新聞  
東北大院が復興政策の検証シンポ
- ・ 2013年11月23日(土) 河北新報  
企業の半数「人手不足」 八戸市と被災3県沿岸部で高い数値 東北大調査
- ・ 2013年11月26日(火) 読売新聞  
県内企業業況やや悪化 被災地3万社アンケート 建設業頭打ちに
- ・ 2014 1-2月号 仙台経済界  
2014 仙台業界天気図 有望業界はここだ！ 成長続く仙台経済
- ・ 東北大学広報誌 2013 冬号 まなびの杜  
イノベーションとデザイン
- ・ 2014年2月19日(水) 日本経済新聞  
「大学と地域の交流の場づくりたい」塾で中小の発想力磨く
- ・ 2014年3月4日(火) 河北新報  
産業創出で生き残りを
- ・ 2014年3月号 宮城県中小企業家同友会 震災復興特集号  
「これからの地域経済の復興の主役は誰なのか」
- ・ 2014年3月14日(金) 河北新報  
東北復興セミナー 第2回街づくりイノベーション 交流紡ぎ地域を再生
- ・ 2014年3月15日(土) 神戸新聞  
震災3年の断面 阪神・淡路をどう生かす 地域産業の育成が必要
- ・ 2014年3月30日(日) 河北新報  
東日本大震災復興支援シンポジウム「明日に向かって、ともに前へ」

## 5-2 今年度の実施事業一覧

- |       |    |                   |
|-------|----|-------------------|
| 2013. | 04 | 復興プロジェクト第1回勉強会の開催 |
|       | 04 | 第28回プロデューサー塾の開催   |
|       | 05 | 復興プロジェクト第2回勉強会の開催 |
|       | 05 | 復興プロジェクト第3回勉強会の開催 |
|       | 06 | 第29回プロデューサー塾の開催   |
|       | 06 | 復興プロジェクト第4回勉強会の開催 |
|       | 07 | 第30回プロデューサー塾の開催   |
|       | 07 | 復興プロジェクト第5回勉強会の開催 |
|       | 07 | 復興プロジェクト第6回勉強会の開催 |
|       | 07 | 復興プロジェクト第7回勉強会の開催 |
|       | 07 | 第1回関西起業塾の開催       |
|       | 08 | 復興プロジェクト第8回勉強会の開催 |
|       | 08 | 復興プロジェクト第9回勉強会の開催 |

- 08 第2回関西起業塾の開催
- 08 地域イノベーションプロデューサー塾の開講
- 08 第17回宮城県中小企業家同友会景気の状態に関するアンケート調査の実施
- 09 第3回関西起業塾の開催
- 09 みやぎ県民大学開放講座の実施
- 10 復興プロジェクト第10回勉強会の開催
- 10 第31回プロデューサー塾の開催
- 11 第1回東北復興セミナーの開催  
「阪神大震災から学ぶ」－神戸からのメッセージ
- 11 復興プロジェクト第11回勉強会の開催
- 11 第32回プロデューサー塾の開催
- 11 2013年度地域産業復興調査研究シンポジウム in 仙台「震災復興政策の検証と新産業創出への提言」－広域的かつ多様な課題を見据えながら「新たな地域モデル」を目指す－の開催
- 11 2013年度地域産業復興調査研究シンポジウム in 東京「震災復興政策の検証と新産業創出への提言」－広域的かつ多様な課題を見据えながら「新たな地域モデル」を目指す－の開催
- 11 神戸大学社会科学系教育研究府・東北大学震災共同シンポジウム「震災からの経済復興」の開催
- 12 復興プロジェクト第12回勉強会の開催
- 2014.01 「東北大学イノベーションフェア 2014in 仙台」への出展
- 01 2013社会イノベーター公志園 東北公志園（共催）の開催
- 02 地域発イノベーション・カフェの開催
- 03 第2回東北復興セミナー「街づくりイノベーション 新たな交流と情報発信による地域再生を考える」の開催
- 03 地域イノベーションプロデューサー塾 卒塾式

### 5-3 所在・連絡先

東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター

○住所：〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1

エクステンション教育研究棟6階（片平キャンパス）

○電話：022-217-6265

○FAX：022-217-6266

○E-mail：rirc@econ.tohoku.ac.jp

○Homepage：http://rirc.econ.tohoku.ac.jp/



エクステンション教育研究棟

東北大学大学院経済学研究科  
地域イノベーション研究センター活動報告書  
(2013.4.1～2014.3.31)

2014年 3月

東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター編